

講

*技術部門 論文選考委員長 内山久雄

平成22年度の道路と交通論文賞の技術部門の候補論文は6編あり、それらの内容は、「貨物車自動走行レーンの交通シミュレータ」、「連続車線規制区間の分割・短縮の交通運用効果」、「耐震補強橋梁の耐震安全性」、「コンクリート橋梁のひび割れ幅抑制」、「日常点検車の道路路面モニタリングシステム」、「道路トンネル換気の拡散と濃度」など交通、橋梁、舗装、トンネルに関する多様な論文で、いずれも優秀な論文であった。

論文選考委員会では、審査に先立ち、まず本賞が、新進気鋭の研究者又は実務者により執筆された論文を表彰対象とする、という奨励的な趣旨から、主執筆者が45歳未満で教授職に就いていないことなどの受賞の資格条件により、論文4編を審査の対象から除くこととした。

残る2編について当委員会で慎重に審査を進めた結果、1編目の「耐震補強された高速道路橋梁の耐震安全性に関する研究」は、耐震補強された橋脚を対象とし、橋梁、基礎、地盤の総合的な耐震安全性について、大掛かりな実験を行って解析したもので、チャレンジ

評

性があり、労力を掛けた貴重な成果が出ている。ただ、基礎の損傷の全体に与える影響のもう一步の追求や、現設計法と過去の研究に対するレビューがあるとさらに優れた内容になったであろう。しかしながら、重要な知見であることは評価に値する。

次に、2編目の「統合型交通シミュレータを用いた貨物車自動走行レーンに関する基礎的研究」は、建設中の第二東名神に貨物車自動走行レーンを整備した場合の導入効果について、新たに構築したマクロとミクロを組み合わせた交通シミュレータを大規模な対象に適用し、交通量や所要時間の変化などを定量的に分析したものである。現象の再現性検証など未完の研究ではあるが、モデルの広範囲な道路網への拡張可能性など、その将来の発展性は期待できる。

従って、両2編の論文は、今後の研究に期待する部分はあるものの、受賞論文としての要件は十分満たしていると認められるため、今回は2編を受賞論文とすることとした。

最後に、今後とも研究者や実務者からの優れた論文が数多く投稿されることを一層期待するものである。